

使徒 8

“サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。”

使徒の働き 8章1節

“他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。”

使徒の働き 8章4節

“しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」”

使徒の働き 1章8節

“ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

群衆はピリポの話聞き、その行っていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。

汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし、多くの中風の者や足のなえた者は直ったからである。

それでその町に大きな喜びが起こった。”

使徒の働き 8章5～8節

“そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。

マルコの福音書 16章20節

“ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行って、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。

小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。

人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。”

使徒の働き 8章9～11節

“しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。

シモン自身も信じて、バプテスマを受け、いつもピリポについていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟が行われるのを見て、驚いていた。”

使徒の働き 8章12～13節

“さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。

ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。

彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。

ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。”

使徒の働き 8章14～17節

“それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。”

テモテへの手紙 第二 1章 6～7 節

“使徒たちが手を置くと御霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに金を持って来て、

「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を私にも下さい」と言った。

ペテロは彼に向かって言った。「あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れようと思っているからです。”

使徒の働き 8章 18～20 節

“あなたは、このことについては何の関係もないし、それにあずかることもできません。あなたの心が神の前に正しくないからです。

だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。

あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいることが、私にはよくわかっています。」

使徒の働き 8章 21～23 節

“このようにして、使徒たちはおごそかにあかしをし、また主のことばを語って後、エルサレムへの帰途につき、サマリア人の多くの村でも福音を宣べ伝えた。”

使徒の働き 8章 25 節

“ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」（このガザは今、荒れ果てている。）

そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピヤ人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、いま帰る途中であった。彼は馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。”

使徒の働き 8章 26～28 節

“御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい」と言われた。

そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが、わかりますか」と言った。

すると、その人は、「導く人がなければ、どうしてわかりましょう」と言った。そして、馬車に乗っていっしょにすわるように、ピリポに頼んだ。

彼が読んでいた聖書の個所には、こう書いてあった。「ほふり場に連れて行かれる羊のように、また、黙々として毛を刈る者の前に立つ小羊のように、彼は口を開かなかつた。彼は、卑しめられ、そのさばきも取り上げられた。彼の時代のことを、だれが話すことができようか。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」

宦官はピリポに向かって言った。「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。

道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」*”

使徒の働き 8章 29～36 節

“そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。”

使徒の働き 8章 38節

“わたしはラハブとバビロンをわたしを知っている者の数に入れよう。見よ。ペリシテとツロ、それにクシュもともに。これらをもここで生まれた者として。”

詩篇 87篇 4節

“主が国々の民を登録される時、「この民はここで生まれた」とするされる。セラ踊りながら歌う者は、「私の泉はことごとく、あなたにある」と言おう。”

詩篇 87篇 6～7節

“水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。

それからピリポはアゾトに現れ、すべての町々を通して福音を宣べ伝え、カイザリヤに行った。”

使徒の働き 8章 39～40節

約 50km